

ランチョンセミナー 26 [LS26]

日時：2026年4月11日(土) 11:50~12:50

会場：Room 5 411+412 (福岡国際会議場)

4月11日(土)

第130回日本眼科学会総会 ランチョンセミナー-26

正弦波回折型3焦点IOLの可能性

～わかってきた利点と課題点からの展望～

日時 2026年 4月11日(土) 11:50 ~ 12:50

会場 Room 5 福岡国際会議場 4F (411+412)

座長



佐々木 洋 先生 (金沢医科大学)

独自の正弦波回折構造を有する新しい3焦点IOL“アクリバトリノバPro”は、球面度数0.0~+4.5Dの範囲も製品化され、これまで選定療養対象多焦点IOLとして選択できなかった強度近視眼にも適応範囲が拡大されたことも追い風となり、昨夏の発売以降、その使用機会は拡がりを見せている。そして、トーリックモデルも追加発売され、更なる臨床貢献が期待されている。

術後早期において、遠方から近方40cmまで良好な術後視力とコントラスト感度が期待でき、異常光視現象は想定通り概ね軽度であることが確認されているが、大瞳孔径ではハローが増大される傾向が示唆されるなど、新たな課題もわかってきた。また、総じて高い患者満足度が得られているが、ライフスタイル等の患者タイプに応じて特徴的な違いがあるのかどうか、この点についても明らかになりつつある。

更には、非常に柔らかい親水性Plate型IOLならではのInjectorの使いこなし方やトーリックモデルの軸合わせ/固定等の操作性におけるコツや留意点についても様々なことが確認されてきている。

今回のセミナーでは、アクリバトリノバProの術後の視機能や満足度に関して更に深く掘り下げてみるとともに、操作性の観点からの評価も加え、利点と課題点の両側面からアクリバトリノバProの等身大の実力・期待値を明らかにし、今後の臨床貢献の可能性について展望してみたい。

演者 1



術後視機能からの展望

鵜飼 祐輝 先生 (金沢医科大学)

演者 2



術後満足度からの展望

安藤 祐子 先生 (総合新川橋病院)

演者 3



操作性からの展望

竹下 哲二 先生 (上天草総合病院)

共催：第130回日本眼科学会総会  わかもと製薬株式会社

共催：わかもと製薬株式会社